

井の口まちづくり会通信

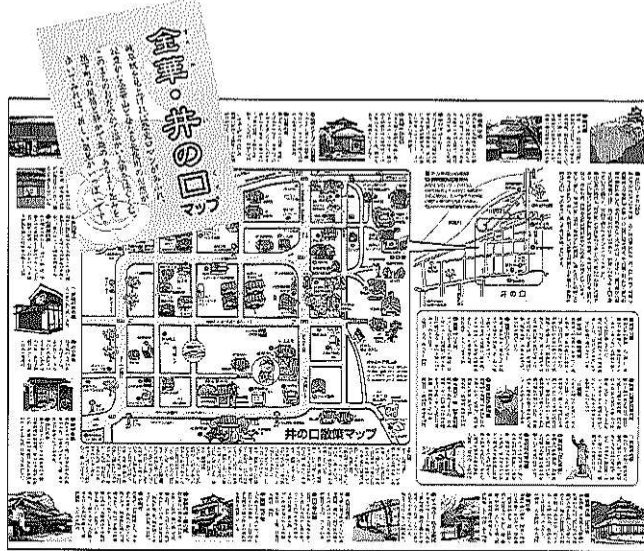
井の口まちづくり会 設立・平成20年3月23日
 発行・平成28年2月20日・第17号通信
 責任者・小林 孝夫 (井の口まちづくり会会長)
 〒500-8018 岐阜市大仏町8 ☎058-264-2760
 事務局長・名和 利夫 ☎058-263-0097
 通信編集作成・馬場わかよ

新「金華・井の口マップ」(3訂版)を発行!

オモテ面カラー・内面2色印刷のマップを4万部作成

井の口エリアのマップが新しくなりました。20年度の初版に23年度改訂版を加えた7万部の在庫が底をつき、新たに3訂版として4万部を、文化庁文化芸術振興補助金の助成を得て作成しました。今回は、片面フルカラー印刷となり、井の口エリアの施設情報がとても見やすくなっています。ぜひ地域の皆さまも活用ください。

そもそも「金華・井の口マップ」の作成は、私も井の口まちづくり会が設立時に活動の拠点としていたエリアを「知る」ことから始まりました。時代の変化とともに



井の口も様変わりしてきましたが、その歴史・文化は今なお引き継がれていることを実感します。こうした地域の魅力と素晴らしさをいつまでも大切に、このまちに数多く訪れる方たちにも、マップを通して感じ取っていただければ幸いです。

城下町当時の町割りも、今もそのままからこそ残るまちの名称説明などもマップに載せました。イラストと文章によりまちの情報を満載したため文字が小さいこと、そして、まだまだ紹介しなげればならない施設もあるかと思いますが、紙面の関係もありこの点もどうぞお許し願います。

また、今回の作成にあたってエリア内の多くの企業、施設の方々から協賛助成をいただきました。紙面を使つてではありませんが、厚くお礼申し上げます。(小林孝夫)

協賛助成をいただいた商店(企業)・施設等
 オンダ特許 画廊光芳堂 常在寺 正法寺
 ふくろう絵工房 妙照寺 十八楼 安藤商店
 岐阜観光索道 東亭食堂 宇野カバン店 奥田銃砲店 小原屋商店 川出医院 かわらや
 ギャラリー小さい家 ギャラリーなうふ現代
 金華茶屋 きんか旅館 公園の湯 コメダ珈琲 清水玲子 松栄堂 名和昆虫博物館 名和パーク 人形の堀田 信長本店 のやま亭 売店植木屋 売店むらせ 萬松館 飛騨牛かわい 堀達夫 ヤジマコーヒー 楽市楽座 わいわいハウス金華 喫茶いわたし んめ 町家カフェコネクションズ(敬称略)

十六銀行からまちづくり会へ寄付金

井の口まちづくり会は発足以来8年を経過し、この4月から第9年目に入ることになりました。この間、会員はもとより地域の皆さまのご理解とご支援のもと、いろいろなイベントや勉強会、調査研究など活発な活動を展開してきました。こうした活動がこの度、十六銀行より高く評価されるところとなり、地域の皆さまに井の口まちづくり会の活動がよりお役に立てるようにと、10万円の寄付金をいただけることになりました。

当会にとってこの寄付金は、民間からの寄付金としては第1号ともいえるものです。会員一同、この貴重な寄付金を大切に活用させていただきます。今まで以上に地域の皆さまと一体となつてまちづくり会の活動に取り組み、十六銀行のご期待にこたえていくよう努めてまいります。(堀 達夫)

「金華・井の口マップ」をご活用ください

井の口まちづくり会の活動区域である井の口エリアの情報を満載した「金華・井の口マップ」を、このまちを訪れる多くの方たちのまち散策に役立てていただきたいと思います。マップを置いていただける商店・企業様、また個人やグループなどでまちを訪れる方に手渡しいただける活動をされている方は、通信右上記にある会長・小林あるいは事務局長・名和まで、電話にてご連絡ください。無料で差し上げます。

まちの風景検討部会による勉強会を開催します ～町家のあったかい住み方～「町家の保全と活用」

3月6日(日)午前10時 河村邸前参集(下茶屋町) 20名(会員限定)



講師をしていただく河合俊和氏

井の口地区の歴史的・文化的なたずまいを醸し出すのは、町家の景観です。日常的に目にしている町家の風景ですが、外から眺めることはあっても中に入つて見せていただくことはなかなかありません。

そうした町家の内部を見学し、町家の特徴、歴史、保存について、一級建築士で古民家再生の設計監理業務に長く携わつてこられ、ご自身も小原屋店主として町家暮らしをされている河合俊和さんに講師をしていただきます。参加費は無料です。

また、町家にお住まいの方も改めて町家の価値を知ることが建物の保全と活用につながるかと考えます。さらに、この勉強会で岐阜市にぎわいまち公社「ぎふ景観まちづくりファンド」の補助金等の説明もあります。

お申し込みは2月29日までに部会長名和(FA X 264-11079・TEL 263-10097)へ氏名・住所・電話番号をお願いします。当日入会員も参加可です。(名和利夫)

「井の口寄席」休止のお知らせとお詫び

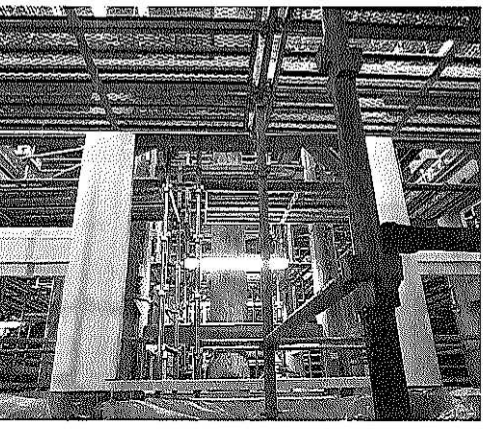
岐阜市が毎年2月に開催する「策伝大賞」決定日の夜、井の口まちづくり会・イベント部会が行ってきました「井の口寄席」ですが、今回、受け入れ体制ができず、残念ながら休止させていただきます。楽しみにしていた皆さまに、お詫びいたします。

定期総会のお知らせ

平成28年度定期総会の開催日程をお知らせします。会員の皆さま参加をお願いします。

日時：平成28年4月29日(祝)午後1時30分
 (受付開始は午後0時30分から)

場所：岐阜市歴史博物館 1階講堂
 ○総会特別講演につきましては準備中です。



解体されて芯柱の懸垂式工法が見て取れる

美しくよみがえる三重塔
 金華山中腹に大きなテントで覆われたスペースが目まぐるしく変わっています。赤い三重塔があった場所です。

大正6年、大正天皇の即位記念にと建てられた三重塔は、その前年、鉄橋に架け替えられた長良橋の古材を利用したものといわれます。

設計は伊東忠太博士、建てる場所は日本画の巨匠・川合玉堂が選定したとされ、構法を用い、日光東照宮の五重塔と同じ懸垂式と呼ばれる芯柱が宙に浮いた造りです。

これまでも小規模な改修工事は行われてきましたが、大部分は建設当時のままです。調査段階で旧コンクリート製基礎の一部の発見があったり、塗装調査で建物全体が朱色ではなく、軸部は丹塗で、窓の連子格子は緑青色であったことも判明し、扉なども古い写真と合わせ見て、当初の姿の再現が検討されています。

工事期間は平成29年2月(予定)まで。現在、三重塔は柱、梁を残して全て解体されていて、部材を調査判別したのち、可能な限り再使用して元のかたちを組み建てられます。

井の口まちづくり会では、工事期間中である28年度事業として、会員の皆さまと「三重塔修復整備工事」の見学会を開催する計画しています。減多にない三重塔の内部を見られるチャンスです。(馬場わかよ)

平成27年度・井の口まちづくり会・各部会活動報告

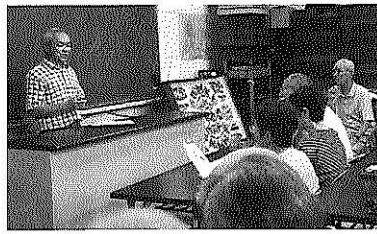
まちの歴史探索部会

「名和昆虫博物館の今と昔」

日本最古で世界的にも知られている昆虫専門の博物館、100年の歴史と昆虫の世界の不思議について、昨年8月23日(日)名和哲夫館長より1時間30分にわたりお話を伺い、引き続き博物館内を見学いたしました。

ギフチョウの発見者名和靖翁が明治29年私設の名和昆虫研究所を京町に設立され、やがて岐阜市の要請により岐阜公園に移転し、大正8年名和昆虫博物館の開館となっております。

現在5代目の館長である哲夫氏により、自主運営されている経過などを40人ほどの参加者が熱心に聞き入りました。(堀 達夫)



昆虫研究所内にて講義



名和昆虫博物館を見学

まちの風景検討部会

「まちの文化的建造物」顕彰

井の口まちづくり会「まちの文化的建造物」に昨年の第1回顕彰では建物管理者様の承諾を得られた7邸を選定。今年度は登録されている建物35邸の中から、選考対象とした建物は18邸で、選定条件は、明治、大正、昭和(戦前)に建てられた歴史的建造物であること。次に、建物の外観が当時の状態で良好に保たれていること。また戦後の建物では、歴史薫るこのまちの特性に配慮がなされていることなどです。

年度末までに部会、役員会で協議をし、承諾を得られた6邸の方に、4月29日の定期総会後のセレモニーにおいて、感謝の気持ちを表すとともに標札をお渡ししました。(名和利夫)



第1回顕彰式



第2回顕彰式

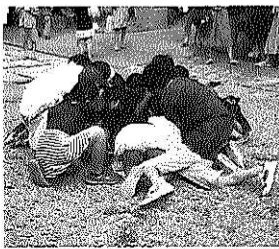
イベント部会

「大仏フェスティバル」協賛事業

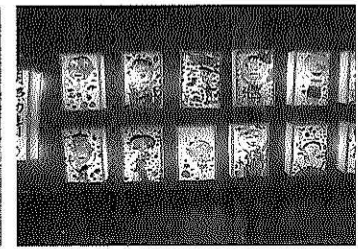
7月18日(土)、19日(日)の大仏フェスティバルで井の口まちづくり会は、子どもゲームを担当しました。連日の土砂降り雨も当日昼頃には上がり、スタッフ総出で水たまりの水を取り除き準備OK。

午後5時からの子どもゲームでは「ジグザグ競争」「ふたりにタッチ」「新聞貼り付けダッシュ」そして「オセロゲーム」に挑戦しました。

就学前の子から小学校6年生くらいまでと、年齢幅がある子どもたちが2日間、歓声を響かせ、協力しながらのゲーム展開がほほえましかったです。(高橋かずえ)



ゲームに興じる子どもたち



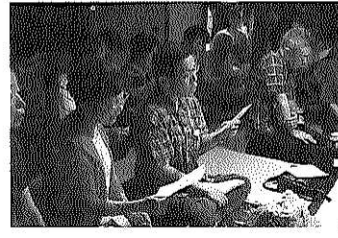
子どもたちが描いたあんどん

まちなかアート部会

まちなか七夕コンサート



ドルチェ・フォルテのお2人



般若寺でのコンサートの様子

7月5日(日)、今年の七夕コンサートはドルチェ・フォルテの女性2人を迎え、夕陽迫る金華山と岐阜城を庭から見上げる「般若寺」をステージに、七夕の夕べにちなんだ曲の数々をピアノと歌で来場者に楽しんでいただきました。出演者とスタッフに加え、浴衣姿での親子連れもあって華やかな客席になりました。最後は「七夕さま」を皆で合唱し、夏の夜の楽しいひとときを過ごしました。(伊藤逸夫)

まちなかお月見アート

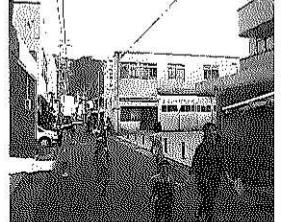
10月24日(土)は、部会員が朝から採り集めたススキを、各戸の軒先に飾っていただくために配付しました。

翌十三夜の25日(日)は、例年と違って子どもたちを対象にしたイベントを企画。大仏殿にて造形作家・服部氏の指導のもと、アクリル板に大仏様を写し取って描き、その作品を首から下げてスタンブラリーに出発。

親子連れでの参加のため昼間のスタンブラリーとし、まち並みに隠した服部先生のアート作品7点中5点以上を地図のヒントを頼りに見つけ、ゴールのふくろう絵工房で駄菓子をつくじ引きでもらえる内容でした。地元の子どものほかに近郊からの参加も得て、まちの中に子どもたちの声が響きました。(伊藤逸夫)



くじを引いて駄菓子をもらう



スタンブラリーの様子



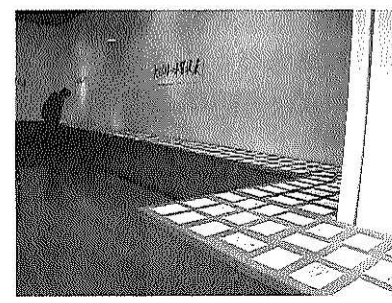
大仏さまを描く子どもたち

大仏様への年賀状と年賀状展

今年も1月8日(金)から10日(日)の3日間、画廊光芳堂にて7回目を迎える恒例の「大仏様への年賀状展」を開催いたしました。

今回はメディアアコスモスなどにも投函箱が用意いただけ、過去最高400枚程の年賀状展示となりました。絵手紙や版画などで岐阜大仏を描いた作品も多く、小学生の兄妹とお母さんその祖母といった三代での投函もありました。特に明照幼稚園、岐阜小学校の皆さんからの可愛い絵柄に文字の年賀状は力作ぞろいで、観覧者の目を引いていました。

大仏様がいただきました年賀状は展示後すぐに、大仏様の胎内に奉納されました。(杉山範彦)



光芳堂にて年賀状展

【私たちといっしょにまちづくり会活動を楽しみませんか?】～各部会長からのPR～
井の口まちづくり会では、平成28年度に向けた新部会員を募っています。歴史と文化を感じるまちへの思いを形にしていきましょう。

広報通信作成部会
部会長 馬場わかよ
皆さまに「井の口まちづくり会通信」をお届けし、当会の活動内容を知っていただくことをいっしょの目的に作成しています。また、「金華・井の口マップ」も設立年から作成しており、今回で3訂版、総数11万部の発行になりました。訪れる人たちにこのまちを知っていただき、住んでいる人たちには、誇りと愛着を感じていただければ幸いです。取材に訪れることもありますのでよろしくお願いいたします。

まちなかアート部会
部会長 伊藤 逸夫
当部会は、上記通信にある「まちなか七夕コンサート」「まちなかお月見アート」「大仏様への年賀状展」の年3回の事業を開催しております。これらは全て企画も運営も部会員の手作りによるものです。また、「アート」を部会名に付けるのは、この美しい井の口地区に磨きをかけ素敵なまちと言われたいからです。まちに活気と賑わいをもたらせるため、楽しいイベントを今後も続けていけるよう頑張ります。

イベント部会
部会長 高橋かずえ
イベント部会ではこれまで、①7月、大仏フェスティバル協賛・子どもゲーム ②9月、御膳街道ウォークへの協賛 ③2月、学生落語家たちによる「井の口寄席」開催の3つを行ってきています。井の口寄席では女性部隊の日頃の腕前が発揮された具だくさんの温かな豚汁もふるまわれ、落語と共に喜ばれています。これからも、地域の手作りイベントの魅力を広げていきたいです。いっしょに活動しませんか。

まちの風景検討部会
部会長 名和 利夫
まちづくりの基本は、まちの見た目だと考えます。見た目が良ければ、住んでいる人は心地よく、まちを誇らしく思います。また、まちを訪れる人にも心地よいものとなります。井の口は、400年前からの町割りを基本に金華山の豊かな自然と歴史が調和した地域です。こうした環境の中で暮らしていく人たちの気持ちが同じになることが、まちの見た目の維持、向上になると考えています。

まちの歴史探索部会
部会長 杉山 周三
部会のテーマは「温故知新」。古きを訪ね新しきを知る井の口地区には、歴史的、文化的に見て貴重な遺産や施設が多く残っております。その一つひとつを再認識し、次の世代に引き継いでいこうと「斎藤四代記」なり、「名和昆虫博物館の今と昔」などの講演会を地区内で開催してまいりました。このまちの歴史に関心がある皆さん、部会に入っていっしょに取り組んでみませんか。